

春の叙勲に本学から5氏

お知らせ

- ・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設
- ・グローバルファシリティセンター機器分析受託部門を創成科学研究棟に移設





北海道大学交流デー（江原大学校）



onちゃん入学セレモニー

全学ニュース

- 1 春の叙勲に本学から5氏
- 7 北海道大学交流デー（江原大学校）を開催
- 7 北海道大学交流デー（吉林大学・東北師範大学）を開催
- 8 「onちゃん入学セレモニー」を開催
- 9 北大フロンティア基金
- 10 「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙げる
- 11 平成29年度春季外国人留学生ウェルカムパーティーを開催
- 12 北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙げる
- 12 新入留学生オリエンテーションを実施

部局ニュース

- 13 教育学院・教育学研究院がタイ・ナコーンパトムラチャバット大学大学院教育学院と学術交流プログラムを開催
- 14 国際食資源学院で学院の看板を掲出
- 14 農学研究院でJAグループ北海道と共同セミナーを開催
- 15 経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
- 15 文学研究科で文系博士のキャリア構築に関するFD研修を開催
- 16 薬学部で新入生歓迎会を開催
- 16 平成29年度薬学実務実習開始セレモニーを挙げる
- 17 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙げる
- 17 北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催
- 18 理学研究院AL推進室・ALP企画シンポジウム「専門教育のためのアクティブラーニング」を開催
- 19 北大-NIMSジョイントシンポジウムを開催
- 20 附属図書館で映画上映会「図書館×映画」を開催
- 20 応援団・恵迪寮関係資料を大学図書館で受贈

お知らせ

- 21 北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設
- 23 グローバルファシリティセンター機器分析受託部門を創設科学研究棟に移設

同窓会との交流

- 24 函館同窓会「総会及び懇親会」

諸会議の開催状況 24

研修

- 25 平成29年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

表敬訪問 26

人事 27

資料

- 28 役職員数（平成29年5月1日現在）



国際食資源学院
学院の看板掲出



文学研究科
文系博士のキャリア構築に関するFD研修



北海道大学病院
新規採用者多職種合同歓迎会



大学図書館
応援団・恵迪寮関係資料を受贈

表紙：平成29年度春季外国人留学生ウェルカムパーティー（関連記事11頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑤ 新緑の山峡を駆ける

■全学ニュース

春の叙勲に本学から5氏

この度、本学関係者の次の5氏が、平成29年春の叙勲を受けることについて、4月29日（土）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝重光章	名誉教授（元 獣医学研究科教授）	喜田 宏
瑞宝中綬章	名誉教授（元 工学研究科教授）	鶴飼 隆好
瑞宝中綬章	名誉教授（元 言語文化学部教授）	浪田 克之介
瑞宝単光章	元 北海道大学病院看護師長	佐竹 恵美子
瑞宝双光章	元 工学部事務部長	檜 重男

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



喜田 宏 氏

感想

この度は、身に余る叙勲の栄に浴し、40年に亘り、研究と教育に専念させていただきました北海道大学の教職員、同僚の皆様と優秀

な学生諸君の温かいご支援に心から御礼申し上げます。

1976年に、7年間インフルエンザワクチンの開発・改良研究に携わりました武田薬品工業株式会社を辞して、北海道大学獣医学部講師に任用いただきました。以来、40年に亘り、インフルエンザ並びに人獣共通感染症の克服に向けた研究に専念させていただきました。その間に、インフルエンザが典型的な人獣共通感染症であること、パンデミックインフルエンザウイルスの出現機構、鳥インフルエンザの制圧対策などを解明・提案して参りました。2015年には、井村裕夫先生をはじめ内閣府総合科学技術会議、並びに戸谷一夫様をはじめ文部科学省の絶大なご支援により、北海道大学に人獣共通感染症リサーチセンターを設置していただきました。

武田薬品工業株式会社でご指導いただきました上司の松山繁夫様、山本繁夫様をはじめ、同僚の皆様、北海道大学にお招きくださり、厳しくもご懇篤な教を賜りました恩師の梁川 良先生をはじめ、先輩、同僚の諸先生、共同研究にご参加くださいました内外の諸先生、並びに優秀な学生諸君のお陰で所期の研究成果を挙げる事ができまし

た。厚く御礼申し上げます。

私は、実は、40年前には、教えることも教えられることも苦手でした。今は、この40年間に私と親しく共同研究に携わった多くの学生諸君が世に出て、使命感と責任感を持った見事な研究者、教育者に育たれた事に感謝し、これを誇りとしています。

功績等

喜田 宏氏は、永年にわたりインフルエンザウイルスの生態学的研究に取組み、疫学と実験研究を通じて、インフルエンザが人獣共通感染症であることを確定するとともに、自然界におけるウイルスの存続メカニズムと伝播経路、ウイルスの抗原変異及びパンデミックインフルエンザ*1ウイルスの出現機構を明らかにするなど、先駆的な研究を推進されてきました。また、世界に先駆けて人獣共通感染症リサーチセンターを北海道大学に創設し、感染症克服に向けた国際連携研究開発を推進するとともに、多数の専門家を養成して、国内外に輩出しています。

インフルエンザAウイルスはヒトや動物に感染すると発熱や呼吸器症状を呈し死に至ることもある、いわゆるインフルエンザを発症します。ヒトでは新たなウイルスによって引き起こされるパンデミックインフルエンザの出現と季節性インフルエンザ*2の毎年の流行が、動物では鳥インフルエンザの猖獗が現在、世界の大きな社会問題となっています。

同氏は、永年にわたって、インフルエンザウイルスの生態学的研究に取組み、疫学並びに実験的研究を通して、イ

インフルエンザAウイルスの自然宿主*3は野生の渡りガモであること、並びに、シベリア、アラスカ、カナダなどの北方圏のカモの営巣湖沼水中にウイルスが存続していることを明らかにされました。すなわち、ヒトと動物に病気を引き起こすインフルエンザAウイルスは、そもそも野生の渡りガモの腸内ウイルスに由来するものであること、つまり、インフルエンザウイルスはヒトと動物の両方に病気を起こす、人獣共通感染症の病原体であることを明らかにされました。

本業績に加え、地球規模の疫学研究によって、自然界におけるインフルエンザAウイルスの存続メカニズムと伝播経路、ウイルスの抗原変異やパンデミックインフルエンザウイルスの出現機構を明らかにするなど、先駆的な研究を行いました。これらの業績は、獣医学、ウイルス学への学術的貢献が顕著であるばかりでなく、家畜衛生学、公衆衛生学、さらには予防医学等の応用分野の進歩に寄与するところが多大で、国際的にも、人獣共通感染症の疫学研究モデルを提示したものとして、極めて高く評価されています。

また、同氏は、平成17年には、世界に先駆けて北海道大学に人獣共通感染症リサーチセンターを創設し、インフルエンザを含む人獣共通感染症の克服に向けた国際共同研究・開発活動を主導されています。その成果が国際的に認知され、同センターは平成23年からWHO（世界保健機関）の人獣共通感染症対策研究協力センターに指定されています。

さらに、同氏の真摯で情熱的な教育・研究活動を通し、きわめて多くの優れた専門家を養成し、国内外に輩出していることも特筆されます。

*1 パンデミックインフルエンザ：ヒトにとって新しいウイルスが世界に伝播して起こすインフルエンザの大流行。

*2 季節性インフルエンザ…現在ヒトで特に冬に流行しているインフルエンザ。季節性インフルエンザの原因ウイルスは、インフルエンザAウイルスとインフルエンザBウイルスに分けられる。人獣共通感染症の原因となるのは、インフルエンザAウイルスである。

*3 自然宿主…自然界においてウイルスなどの病原体が存続するための本来の棲家となる生物。インフルエンザAウイルスの自然宿主は野生の渡りガモであることを喜田氏が解明した。

略 歴

生年月日 昭和18年12月10日
 昭和44年4月 武田薬品工業株式会社
 昭和51年3月 北海道大学獣医学部講師
 昭和53年4月 北海道大学獣医学部助教授
 平成6年6月 北海道大学獣医学部教授
 平成7年4月 北海道大学大学院獣医学研究科教授
 平成13年5月 } 北海道大学大学院獣医学研究科長・獣医学部長
 平成16年3月 }
 平成17年4月 } 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター長
 平成24年3月 }
 平成19年12月 日本学士院会員
 平成24年4月 北海道大学大学院獣医学研究科特任教授、
 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター統括
 平成28年3月 北海道大学退職

平成28年4月 北海道大学名誉教授
 北海道大学ユニバーシティープロフェッサー
 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター特別招へい教授・統括
 平成29年4月 長崎大学感染症共同研究拠点長

(獣医学院・獣医学研究院・獣医学部)



うらい たかよし
鵜飼 隆好 氏

感 想

この度、春の叙勲で瑞宝中綬章の栄に浴し感謝に堪えません。これも偏にそれぞれの学び舎で受けた幾多の恩師、先輩、同僚、後輩の皆様方の温かいご指導とご支援の賜物と感じております。

昭和20年8月の終戦の翌日、旧ソ連軍機の機銃掃射を避けながら子供だけが小さな漁船に押し込められ、樺太からの強制疎開の第一陣として国籍不明潜水艦の脅威に曝されながら宗谷海峡を渡って北海道にたどり着いた時から、早くも72年が経ちました。そのことを考えると感慨ひとしおのものがあります。

北海道大学工学部を卒業後2年半の会社勤務を経て、学科増設の要員として大学に戻ることになりましたが、教員生活にも慣れてきたいわゆる一番脂の乗りかけた頃、全国に広がった大学紛争・学生運動の洗礼を受けました。本部占拠や学部封鎖などの物騒な言葉が日常用語になった時代であり、満足に自分の時間が作れないこともありました。

工学は、実学として人間の知恵やエネルギーが生産を支え、企業を育てる時代でありましたから、実学としての訓練が中心の時代に生きてきたと考えております。その時期には私の所属した機械工学の分野も近代化の黎明期・ルネッサンスの時であり、その後大きく変化しました。

大学の使命は研究と教育であります。私の行ってきた研究は、機械構造部材に内在する残留応力の正確な測定法の開発です。広く人工構造物を構成する部材は、多くの加工工程を経るために歪み・残留応力が内在した状態にあります。それを用いる機械や構造物の設計の立場からすると、それら残留応力の正確な把握見積もりが、その構造物の寿命を決めるためにぜひとも必要になってきます。加工工程は機械的、熱的等々の様々な履歴を経ますので、それらに対応した測定手段を開発しなければなりません。そのような残留応力の簡便でかつ正確な測定方法の確立を目指してきました。また、作業者の人間性・誠実さが顕著に現れる人間中心型生産システムの一つである溶接接合技術における溶接欠陥の発生要因の解明を、残留応力評価の観点から研究してきました。これらの研究は時代とともに変化し、人間が介在せずに欲しい結果が得られる時代の先鞭をつけたものと自負しております。

大学に戻った頃は、学生の兄貴のような年齢でしたので、研究室生活も和気あいあいであり、いまだに教え子たちとの交流が続いていることは嬉しい限りです。

最後に、これまで育てご協力をくださった皆様に改めて心から感謝申し上げ、北海道大学がますます発展し、優れた研究、優れた人材を育てるよう発展を期待いたします。

功績等

鶴飼隆好氏は、昭和35年3月北海道大学工学部機械工学科を卒業後、同年4月三菱重工工業株式会社（現 三菱重工株式会社）に入社、神戸造船所機械設計部に勤務されました。昭和37年8月同社を退職後、直ちに北海道大学工学部講師に採用、同38年9月に助教授、同59年4月には教授に昇任され、機械工学第二学科機械設計学講座を担当されました。平成8年5月には機構改革に伴う大学院の一部重点化により、機械科学専攻設計機能工学講座の教授として適応設計学分野を担当、同9年4月大学院重点化の完成に伴い、北海道大学大学院工学研究科教授に配置換となりました。

研究面では、曲率法による多層板、ひずみゲージ法による多層板、電着平板、電着多層円筒、X線による多層板や多層円筒、平面曲げによる鋼板、X線侵入深さを考慮した球や円筒、白色X線によるエネルギー分散法、コーティング界面、セラミックス、ハイドロキシアパタイト、生体骨組織といった数多くの機械構造物に应用される各種残留応力測定法に関する研究成果を公表し、この分野の発展に多大な貢献をなされました。

また、人間作業システムや作業環境に関し、人間工学と経営工学を融合した人間中心型工程設計の研究にも成果を挙げられ、作業習熟、中高齢者の組立作業システム、ロボット組立ライン、取置作業の適正作業域、VDT作業の作業環境特性、立体作業域の設計要因、作業とエネルギー代謝等の研究により、この分野の発展にも貢献されました。

さらに、整形外科及び福祉工学領域のバイオメカニクスに関する研究並びに人工股関節の機能的設計問題、骨格構造三次元形態計測、電動車椅子、側弯症計算シミュレーション、上肢筋力数値解析等の研究を行い、機械設計学の新たな分野への開拓・展開に寄与されました。

学内においては、構内交通委員会委員、図書館委員会委員、図書館委員会理系分館検討小委員会、学生部委員、体育会ゴルフ部顧問、クラーク会館委員会委員、北海道地区国立大学大滝セミナーハウス運営委員、国際交流委員会学生交流専門委員会委員、公開講座委員会委員、百年記念会館運営協議委員、北海道大学主管共通第一次学力試験実施連絡部会部員を務められました。また、工学部においては、高エネルギー超強力X線回折系運営委員会委員、X線取扱管理者、研究開発協力相談室運営委員会委員を務められ、工学部の運営に参画されるとともに、その発展に尽くされました。

以上のように、学生の教育、学術研究の発展、大学の運営及び産業界、地域社会に対する貢献は極めて大なるもの

があります。

略歴

生年月日	昭和12年4月17日
昭和35年4月	三菱重工工業株式会社神戸造船所機械設備産業機械設計課
昭和37年8月	北海道大学工学部講師
昭和38年9月	北海道大学工学部助教授
昭和59年4月	北海道大学工学部教授
平成9年4月	北海道大学工学部機械工学科長
平成10年3月	
平成13年3月	北海道大学停年退職
平成13年4月	北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)



なみた かつのすけ
浪田 克之介 氏

感想

この度、春の叙勲に際し、図らずも受章の栄に浴しました。身に余る光栄で、これもひとえに恩師、先輩など多くの方々のご指導、ご支援の賜物と心から感謝いたしております。

導、ご支援の賜物と心から感謝いたしております。

本学の創基80周年に当たる1956年に文類に入学しましたが、当時はまだ学内に牧歌的な雰囲気が漂っていました。晴天の日には中央ローンや植物園でフランス語の授業があったりする一方、雨の日は使用不能な「雨天体操場」をはじめ今日の堅牢な建物とは違う木造校舎で、しかし良き師のもと大学院を修了するまで9年間を過ごしました。

教員養成大学に3年間勤務した後、昭和43年から旧教養部と言語文化部で主として英語を、また教育学部で英語科教育法を担当しました。その間、大学紛争で授業も研究室の使用もできなかったこと、また、入学試験が国公立大学共通の一次試験と各大学の二次試験に分割されたり、本学の英語の出題に音声テストを導入するため、全学の試験場に音声装置を整備したこと、さらには言語文化部を母体とする大学院新設計画に時間を割いたことなどが思い起こされます。

研究分野は言語学としての英語学から言語教育学に重点を移しました。言語教育学を含む学際的な応用言語学は1960年代後半から欧米で急速に発展し、本研究分野の確立に大きな貢献をしていた英国のエジンバラ大学に、1971年から1年間、ブリティッシュ・カウンシル奨学生として学ぶことができました。その後、学内外のこの領域に関心を持つ研究者とともに大学英語教育学会の北海道支部が創設されています。

言語的多数派の子弟に、語学を含むほとんどすべての教科を、目標言語（第二言語）を使用して行う第二言語教育の方法があります。しかし、このイマージョンと呼ばれる

言語教育もしくは学校教育は、英仏二言語併用主義と多文化主義を採用するカナダでは、単なる教育方法の問題だけではなく連邦政府の政策と関わり、言語政策の研究は必然的に地域研究、すなわちカナダ研究へと領域が広がります。本研究のため、カナダ政府の援助によりトロント大学に1982年から1年間滞在しました。これらの在外研修が所属学科に承認されましたことに改めて感謝いたします。

最後に、大学を取り巻く環境は一層厳しさを増すことが予想されますが、北海道大学が本学の建学精神に基づき教育研究の場としてますます充実し、その使命が果たされることを願っております。

功績等

浪田克之介氏は、昭和12年7月16日に北海道に生まれ、同35年3月北海道大学文学部文学科（英語英米文学専攻）を卒業後、同年4月北海道大学大学院文学研究科修士課程に進学し、同37年3月文学修士号を取得、引き続き同大学大学院文学研究科博士課程に進学し、同40年3月同課程を単位取得満期退学しました。昭和40年4月北海道学芸大学岩見沢分校（現 北海道教育大学岩見沢校）に助手として勤務し、同41年4月講師に昇任、同42年4月に助教授に昇任されました。昭和43年4月北海道大学文学部講師として転任し、同50年1月助教授に昇任されました。昭和56年4月に北海道大学言語文化部助教授に配置換となり、同60年4月教授に昇任し、平成9年4月から同11年3月まで北海道大学言語文化部長を務め、同13年3月に北海道大学を停年にて退職されました。平成13年4月に北海道大学名誉教授になられ、また、北海道情報大学教授に就任し、同20年3月に退職されるまで、応用言語学の研究・教育に努められました。

応用言語学の教育・研究において、浪田氏は、カナダの多文化主義的言語政策や二言語併用教育の状況を日本に紹介してカナダ研究の振興に貢献するとともに、現代英語の慣用法及び語彙に関する深い洞察を基盤として辞書や英語学・英語教育学用語辞典の編纂に寄与し、また、ヨーロッパで提唱された伝達能力重視型の外国語教授法にいち早く着目して日本の英語教育の発展に貢献されました。

また、北海道大学言語文化部長としては、大学院大学を目指した当時の北海道大学で国際広報メディア研究科の設立へ向けての準備に尽力し、英国ウォリック大学との部局間交流協定を締結して大学教育の国際化に貢献されました。さらに、同大学在任期間中、全学教育における英語教育の標準化、入学試験改革、コンピュータを使った外国語教育の環境整備に尽力され、日本の高等教育における英語教育改革の先陣を切り続けました。

学外にあっては、平成16年から日本カナダ学会副会長として同学会の組織運営に努めたほか、大学英語教育学会では北海道支部の設立に尽力し、同支部幹事・支部長を歴任されました。浪田氏はさらに、同学会において平成6年から同14年まで理事を、同17年から現在まで顧問の職を務め、また、同20年から同24年まで日本言語テスト学会会長

に就任し、我が国の英語教育の学問的発展と実践における改善に寄与されています。

以上のように、同氏は、応用言語学研究と我が国の英語教育改革に尽くしたものであり、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

生 年 月 日	昭和12年7月16日
昭和40年4月	北海道学芸大学岩見沢分校助手
昭和41年4月	北海道教育大学岩見沢分校講師
昭和42年4月	北海道教育大学岩見沢分校助教授
昭和43年4月	北海道大学文学部講師
昭和50年1月	北海道大学文学部助教授
昭和56年4月	北海道大学言語文化部助教授
昭和60年4月	北海道大学言語文化部教授
平成9年4月	北海道大学言語文化部長・評議員
平成11年3月	
平成13年3月	北海道大学停年退職
平成13年4月	北海道大学名誉教授、北海道情報大学教授
平成20年3月	北海道情報大学退職

（国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院）



さ た け え み こ
佐竹 恵美子 氏

感 想

この度、図らずも叙勲の栄誉を賜り、身に余る光栄と感激致しております。これもひとえに関係の皆様のご尽力の賜物と深く感謝し、

お礼申し上げます。

私は、昭和54年8月北海道大学病院に就職し、34年間勤務させていただきました。最初の配属は、産科新生児室で、翌年4月に小児科病棟に異動になり、嬉しかったことを鮮明に覚えています。小児看護には、予見性・洞察力・多角かつ多様な対応力がより一層求められるため、看護の醍醐味や達成感を味わうことができます。成長発達への支援・家族看護など困難なこともありましたが、患児の笑顔に救われました。

その後、新生児室、救急部、手術部を経て、昭和63年からは、副看護婦長として、特殊検査室、放射線科病棟を経験しました。平成4年に眼科看護婦長に就任し、移転時には、患者さんのQOLを考えて管理課の皆様と施設・設備（音声・点字システムなど）の設置を行いました。

平成8年から9年間は、材料部看護師長として、臨床現場の業務削減に取り組みました。材料部は先駆的役割を担っており、文部科学省からの視察をはじめ、国内外から年間約300名の見学者や研修生を受け入れ、看護助手の対応力や取り組み姿勢は高い評価を得ました。

平成17年には、第一外科・小児外科病棟に異動になり、

先端医療と教育並びに医療経済のあり方（在院日数の短縮、稼働率の向上、費用対効果など）を学び、国際学会や他施設との交流の中でも見聞を広げることができました。平成20年に医療安全管理部GRM（ゼネラルリスクマネージャー）に就任し、医療事故の関係者や面識のない患者さんやご家族への対応の中で、信頼関係構築の重要性を再認識しました。

平成23年には、念願の小児科病棟に異動になり、集大成として、充実した3年間を過ごすことができました。小児看護の専門性を習熟できる人材育成、経営改善など多岐にわたり、医師やスタッフと協働して取り組んだ結果、院内の各方面から評価していただきました。お陰様で獲得したインセンティブ経費により、学会や研修に沢山のスタッフに参加でき、保健科学研究所看護学教授との共同で、ICN International Conference 2013で「海外で治験を受ける子供の両親の意思決定に関する支援」を報告することもできました。

看護研究は、入職時から年間複数演題報告しており、また、千葉大学看護実践研究指導センターの6ヶ月研修（看護実践研究講習会）にも参加させていただき、私のライフワークとなりました。同僚やスタッフと論文をまとめ、成果を数多くの学会で報告できたことを誇りに思っています。

北海道大学病院での看護師生活を振り返る時、諸先輩・同僚・後輩・他職種など様々な方々にご支援やご指導をいただいていたことを実感し、感謝の気持ちで一杯です。今後はこの榮譽に恥じることはないよう過ごしてまいりたいと思います。

最後になりますが、北海道大学、北海道大学病院、看護部の発展をご祈念申し上げ、お礼の言葉と致します。

功績等

佐竹恵美子氏は、昭和28年4月12日に北海道厚岸郡厚岸町に生まれ、同51年3月に北海道立釧路高等看護学院を卒業後、他病院での勤務を経て、同54年8月に北海道大学医学部附属病院に採用、同63年副看護婦長、平成4年看護婦長を歴任し、同26年3月に北海道大学病院を定年にて退職されました。

同氏は、当初、産科病棟、小児科病棟、手術部・救急部で勤務し、副看護婦長に昇任後は放射線科病棟で患者の生活に視点を置いた看護を実践されました。この間、看護実践研究講習会を受講、臨床での看護実践を研究としてまとめる重要性を学び、臨床現場に活用する一方、研究指導も積極的に行いました。

看護婦長時代は、眼科病棟、材料部ナースセンター、第一外科・小児外科病棟、医療安全管理部、小児科病棟で勤務されました。

材料部ナースセンターでは、全国の材料部の先駆的役割を發揮し、国内外から年間約300名の見学や研修を受け入れました。また、臨床現場の負担軽減や質向上のため、全国に先駆けて器材洗浄の一元管理、ME機器管理センターの設置、物流管理システムの構築に取り組みされました。学会発

表や論文投稿も多く行い、平成12年の全国国立大学病院材料部部長看護婦長会議では当番校として、全体会での「材料部の役割と機能」調査報告や、講演を行い、全国の材料部の発展や質向上に貢献されました。平成15年には、日本看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程を受講し、看護管理者としての資質向上にも努められました。

平成20年からは、医療安全管理部でGRMとして医療安全管理体制の整備・運営に尽力された後、小児科病棟では小児看護の専門性に習熟した人材育成に取組み、ICN（国際看護師協会）International Conference 2013での「海外で治験を受ける子供の両親の意思決定に関する支援・不安と心配事に焦点を当てた検討-」等学会発表も多く行い、専門性の高い小児看護実践の質向上に貢献されました。

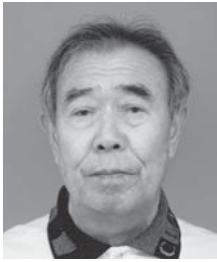
同氏は社会活動も精力的に行い、国立大学附属病院医療安全管理協議会GRM部会研修企画会議議長、北海道造血細胞移植研究会幹事などを歴任、また北海道看護協会では業務委員や現任教育研修会講師等を担当し、道内における看護師のニーズに対応した研究企画・支援など看護の質の向上に貢献されました。

以上のように同氏は、34年以上の永きにわたり看護管理・教育の充実に尽くされ、その功績は誠に顕著であります。

略歴

生年月日	昭和28年4月12日
昭和54年8月	北海道大学医学部附属病院看護部
昭和63年4月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成4年4月	北海道大学医学部附属病院看護部看護婦長
平成15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護婦長
平成16年4月	北海道大学病院看護部看護婦長
平成26年3月	北海道大学定年退職

（北海道大学病院）



まき しげお
榎 重男 氏

感想

この度の春の叙勲で瑞宝双光章
拝受の榮に浴し、身に余る光榮に
感激しております。

昭和30年3月、高校卒業と同時に
北海道大学医学部附属病院職員となりました。その後、
定年退職までの約40年間は、医学部附属病院、事務局、水
産学部、獣医学部、文学部、理学部、2度目の医学部附属
病院、工学部で、北大を出ることはなく、幸せな北大勤務
でした。

定年後には大腸がんを患い、入退院を繰り返してきました
が、現在はがんも完治して、マイペースでマラソンを楽
しんでいます。今年も北海道マラソンで北大構内を走るこ
とを楽しみにしています。

功績等

榎 重男氏は、昭和30年3月北海道札幌伏見高等学校を
卒業後、同年3月北海道大学医学部附属病院臨時用人に採
用され、同32年10月医学部附属病院事務員に配置換となり
ました。昭和36年9月文部事務官に任官され、同42年4月
水産学部経理掛長に昇任、同46年4月施設部企画課管理掛
長に配置換となった後、同年8月施設部企画課工事契約掛
長、同48年1月施設部企画課工事司計掛長、同49年4月経
理部主計課第二予算掛長、同51年4月経理部主計課監査掛
長、同56年4月経理部主計課総務掛長を歴任され、同57年
4月医学部附属病院管理課課長補佐に昇任、同58年4月経
理部主計課課長補佐、同62年4月獣医学部事務長、平成2
年4月水産学部事務長、同4年4月文学部事務長、同6年
4月理学部事務長を歴任された後、同8年4月工学部事務
部長に昇任され、同9年3月定年により退職されました。

この間、同氏は北海道大学に42年の永きにわたり勤務さ
れ、特に昭和62年4月から退職までの10年の間、部局事務
責任者である事務長または事務部長として卓越した行動力
と実行力、そして広範な知識と経験をもって部下の指導と
育成に努められるとともに、当時の部局長を側面から支援
しながら管理運営にあたり、歴任した各部局の発展及び整
備充実に尽力されました。

特に工学部では、同氏の事務部長就任当時、土岐祥介工
学部長のもと、大学院重点化構想により、4専攻群11専攻
41大講座2協力大講座4学科群12学科による大「工学研究
科」への改組が進行中であり、同氏は社会工学系専攻群の
大学院改革に着手されました。平成9年4月の改組に向
け、概算要求案の事務局及び文部省におけるヒアリング、
工学部改革推進委員会、設立準備委員会など多岐にわたる
繁忙な業務にもかかわらず、事務部の責任者として適切な
指示・指導及び関係教官への事務面での適切な助言等によ
り、新専攻群の組織及び新教育研究体制が整備され、平成
6年度から始まった工学部の大学院重点化は実質的に完了

し、今日の大学院工学研究院・工学院・工学部の基礎とな
る組織改革に大いに寄与されました。

大学院重点化に伴い、工学部への寄附講座設置の交渉が
順次進み、平成8年10月土木工学科「雪氷工学講座」、同
9年4月都市環境工学専攻「水環境工学国際（西原）講
座」、環境資源工学専攻「都市代謝システム工学（荏原）
講座」の設置に大いに貢献されました。また、平成8年7
月には、工学部ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟、
同8年10月には工学部材料化学系実験棟、工学部パワーセ
ンターがそれぞれ工学部敷地に設立され、増築工事落成に
尽力されました。

以上のように同氏は、永年にわたって大学行政の進展に
精励され、その功績は誠に顕著であります。

略歴

生年月日	昭和12年1月11日
昭和30年3月	北海道大学医学部附属病院臨時用人
昭和32年10月	北海道大学医学部附属病院事務員
昭和33年9月	北海道大学会計課給与掛
昭和35年8月	北海道大学経理部主計課監査掛
昭和36年9月	文部事務官
昭和42年4月	北海道大学水産学部経理掛長
昭和46年4月	北海道大学施設部企画課管理掛長
昭和46年8月	北海道大学施設部企画課工事契約掛長
昭和48年1月	北海道大学施設部企画課工事司計掛長
昭和49年4月	北海道大学経理部主計課第二予算掛長
昭和51年4月	北海道大学経理部主計課監査掛長
昭和56年4月	北海道大学経理部主計課総務掛長
昭和57年4月	北海道大学医学部附属病院管理課課長補佐
昭和58年4月	北海道大学経理部主計課課長補佐
昭和62年4月	北海道大学獣医学部事務長
平成2年4月	北海道大学水産学部事務長
平成4年4月	北海道大学文学部事務長
平成6年4月	北海道大学理学部事務長
平成8年4月	北海道大学工学部事務部長
平成9年3月	北海道大学定年退職

(工学院・工学研究院・工学部)

北海道大学交流デー（江原大学校）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進することを目的とし、3月8日（水）に江原大学校において北海道大学交流デーを開催しました。

江原大学校は、韓国江原道春川市にあり、19大学、12大学院等を有する国立の総合大学です。本学と江原大学校は、1998年に本学農学部と江原大学校の農業生命科学大学、林産大学及び畜産大学との間で部局間交流協定を締結し、2002年には大学間交流協定を締結しています。

開会式には、江原大学校の山林環境科学大学のチェ ジェンギ学長をはじめ教職員及び学生等132人の出席があり、本学からは農学研究院と国際食資源学院を中心に7人の教職員が出席し

ました。

大学交流デーでは、「グローバル課題の解決を目指した人材養成と大学の役割—食料と環境—」と題して、テーマに沿った研究発表を行ったほか、本学と江原大学校の概要について互いに紹介を行い、本学からは特に、本年4月に設置された国際食資源学院について



大学交流デーの様子

て詳しく紹介を行いました。また、大学交流デーの会場の外には本学の情報ブースを設置し、本学の広報冊子等を配布したほか、留学等に関する学生からの相談に応じました。

（国際部国際連携課）



大学情報ブースの様子

北海道大学交流デー（吉林大学・東北師範大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、3月27日（月）に吉林大学で、28日（火）には東北師範大学において、北海道大学交流デーを開催しました。

吉林大学は1946年に設立された中国東北行政大学を前身とする大学で、昨年創設70周年を記念した行事が開催され、本学の山口佳三総長も出席しました。吉林省長春にキャンパスがあり、教職員約6,700人、学生7万人以上が在籍しており、本学とは2004年に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学から邴 正副学長をはじめ教職員47人が出席し、本学からは、寺尾宏明副学長をはじめ38人の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、邴副学長の挨拶からはじまり、続いて、本学の寺尾副学長の挨拶の後、吉林大学の概要紹介があり、最後に、本学国際連携機構の野澤俊敬特任教授による、本学の国際交流及び日本への留学等についての説明がありました。

引き続き、5つの分科会に分かれて、研究交流セミナーを実施しました。

第1分科会は、本学農学研究院と吉林大学植物科学学院、第2分科会は、本学保健科学研究院と吉林大学生命科学学院、第3分科会は、本学理学研究院と吉林大学数学学院、第4分科会は、本学工学研究院と吉林大学機械行程学院、第5分科会は、本学メディア・コミュニケーション研究院と吉林大学新聞・広報学院との間で行われ、本学の紹介や研究交流が行われました。

また、当日の午後には、山口総長が吉林大学の李 元元学長を表敬訪問し、今後の両大学の交流等についての意見交換を行いました。

翌日に交流デーを開催した東北師範大学は、教職員約1,500人、学生約25,000人が在籍する中国の国立総合大

学で、本学とは、2009年に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学から劉 益春学長をはじめ、教職員及び学生等約72人が出席し、本学からは、山口総長、寺尾副学長をはじめ、38人の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、東北師範大学の劉学長の挨拶からはじまり、続いて、本学の山口総長の挨拶の後、本学に留学した経験のある東北師範大学の学生から、日本語で東北師範大学の紹介が行われました。その後、本学国際連携機構の野澤特任教授による、本学の国際交流及び日本への留学等についての説明がありました。

引き続き、5つの分科会に分かれ



吉林大学で挨拶する寺尾副学長



吉林大学で大学紹介を行う野澤特任教授

て、研究交流セミナーを実施しました。

第1分科会は、本学農学研究院と東北師範大学地理科学学院、第2分科会は、本学保健科学研究院と東北師範大学生命科学学院、第3分科会は、本学理学研究院と東北師範大学数学与統計学院、第4分科会は、本学工学研究院と東北師範大学計算機科学・情報技術学院、第5分科会は、本学メディア・コミュニケーション研究院と東北師範大学メディア科学学院との間で行われ、本学の紹介や研究交流が行われました。

今後も国際部では、中国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交

流を強化していきます。

(国際部国際連携課)



東北師範大学で挨拶する山口総長



東北師範大学での集合写真

「onちゃん入学セレモニー」を開催



セレモニー記念撮影

産学・地域協働推進機構は、4月22日(土)にフード&メディカルイノベーション国際拠点多目的ホールにおいて、「onちゃん入学セレモニー」を行いました。

本セレモニーは、3月29日(水)に締結した本学と北海道テレビ放送株式会社(以下、HTB)との「連携プログラム実施協定」の一環として、HTBのマスコットキャラクター「onちゃん」を特別学部学生として本学に迎えるもので、新1年生・在校生・教職員合わせて約200名が参加しました。

セレモニー第1部では、北海道大学

合唱団による札幌農学校校歌「永遠の幸」が流れるなか、特別学部学生onちゃんが入場し、名和豊春総長の挨拶の後に、onちゃんへ学生証の授与が行われました。また、新1年生3名の代表挨拶があり、長谷川晃理事・副学長が新1年生及びonちゃんへ祝辞を述べました。

第2部では、YOSAKOIソーラン北海道大学「縁」やバンザイ魂による演舞、onちゃんとのパフォーマンス、参加者全員でonちゃんダンスを踊るなど、新1年生・在校生とonちゃんが交流し、熱気あふれるセレモニーとなりました。

ました。

今後onちゃんは、大学祭などの行事参加や、学生生活の様々な体験を通じて、本学や北海道の魅力を道内外に配信していきます。

◆onちゃん学生生活の配信

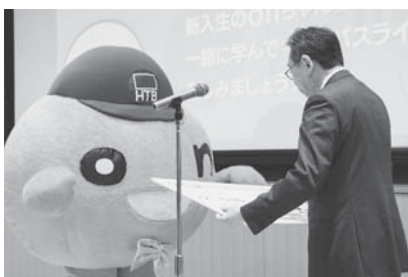
・ビデオオンデマンド「onちゃんキャンパスライフ」

http://hod.htb.co.jp/pg/pg_oc

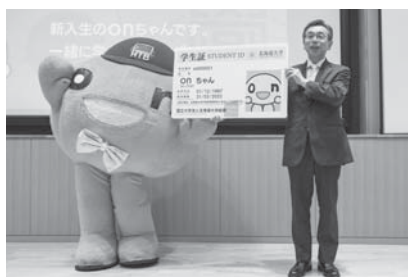
・インスタグラム「onちゃんキャンパスライフ」

@onchan_campuslife

(産学・地域協働推進機構)



学生証授与の様子



名和総長との記念撮影



YOSAKOIソーラン北海道大学「縁」の演舞

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（4月30日現在）

20,296件 4,151,907,564円

4月のご寄附状況

法人等4社、個人153名の方々から16,557,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている皆様のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社MATコンサルティング、日本甜菜製糖株式会社、株式会社北洋銀行

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	泉 典洋	入澤 秀次	岩本 章	上田 利文	岡田 勝	乙坂 重嘉
小内 透	小原 大和	帰山 雅秀	角田 敏男	金川 眞行	河本 充司	菊地 覚	岸 大輔
久保田幸一	黒川 輝世	斉藤 久	佐々木亮子	三升畑元基	清水 智之	蛇川 雄司	杉田 弘也
角井 碧	瀬名波栄潤	高須 泰彦	田中 克二	谷岡 尚昭	津田 和男	土家 琢磨	角井 淳一
寺澤 睦	常盤野俊子	徳佐 隆浩	豊田 威信	成清 貴政	西 肇	西岡 史郎	西沢 俊夫
平井 康市	藤井 政幸	本郷 隆二	正木 志良	溝口 昭弘	三津 正人	南 亮介	宮脇 敬
宮脇 知生	宮脇 陸	宮脇 雅司	宮脇 悠	本橋 勉	安井 敬一	山内 隆嗣	吉木 敬
吉田 広志	リマ アドリアノ						

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

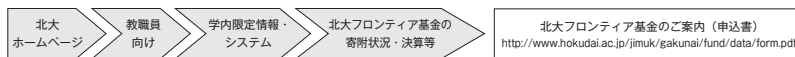
（個人）

泉 典洋、岸 大輔、高須 泰彦、
西岡 史郎、宮脇 敬、宮脇 知生、
宮脇 陸、宮脇 雅司、宮脇 悠、
吉木 敬

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」 「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」及び「日本語研修コース」入学式を挙

本年4月入学の「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」 「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」及び「日本語研修コース」の入学式を、4月10日(月)に学术交流会館において行いました。

HUSTEPは、本学の国際交流協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施するプログラム、日研コースは、母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部在籍している留学生に対して日本語、日本文化、日本事情に関する教育を行う研修コース、そして日本語研修コースは、大学院進学前の大使館推薦の国費留学生に対して開設されている6か月

間の日本語予備教育を行う研修コースです。

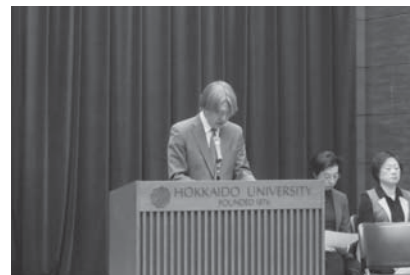
今回入学したのはHUSTEPに33名、日研コースに17名、日本語研修コースに12名の62名です。

出席者の紹介が行われた後、各プログラム担当教員によるプログラム紹介があり、学生は起立し、出席者と学生に向かって一礼し、温かい拍手で迎えられました。続いて、長谷川晃国際連携機構副機構長から祝辞が述べられました。

入学式終了後、同会場にて外国人留学生のためのオリエンテーションが行われました。大学での事務手続き等の説明の他、札幌北警察署や札幌国際プ

ラザによる交通安全や札幌での生活についての案内、在学による大学生活に関する簡単な発表などがあり、新しい生活に向けて学生たちは熱心に聞き入っていました。

(国際部国際教務課)



長谷川副機構長による祝辞



北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP) 留学生



日本語・日本語文化研修コース (日研コース) 留学生



日本語研修コース留学生

平成29年度春季外国人留学生ウェルカムパーティーを開催



集合写真

4月10日（月）、北部食堂において、国際連携機構主催で4月に本学に入学した留学生を対象としてウェルカムパーティーを開催しました。

この行事は、新入留学生が、出身国や専攻分野の垣根を越えて、留学生同士、及び日本人学生等との交流の機会を提供することで本学での留学がより実りあるものになることを目的に実施するもので、全学から約230名の参加がありました。

パーティーは、総長補佐で国際連携機構留学生生活支援室長であるラフェイ・ミシェル先生の挨拶に始まり、司

会の松田直輝さん（農学部2年）、ニュエンティ ツィ ヴァンさん（現代日本学プログラム課程2年）の乾杯で開会しました。新入生を代表して、国際感染症学院に入学したクリスティダエスツ ワスティカさん（インドネシア出身）から、広い視点を持つことが求められる今日、本学での自身の研究により、全ての北大生あるいは、地球に生きる人間にとってより良い世界を創り出すことに貢献したいとの今後の抱負が述べられました。続いて、北海道大学民謡研究会合唱団「わだち」による演舞が披露され、ソーラン節など

の日本伝統民舞の迫力あるパフォーマンスに会場は盛り上がり、留学生は写真を撮るなど熱心に見入っていました。

本パーティーは、学内から応募のあった先輩留学生及び新渡戸カレッジ生を中心としたボランティアスタッフの手で、企画と当日の進行が行われました。パーティー後半には、クイズやビンゴなどのアトラクションが行われ、ゲームや歓談を通して、参加した留学生は互いに親交を深め、新たな交流の輪を広げていました。

（国際部国際教務課）



ラフェイ国際連携機構留学生生活支援室長の挨拶



ワスティカさんの挨拶



司会の松田さん（右）とニュエンさん（左）



「わだち」のパフォーマンス



歓談する参加者

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行



全員での記念撮影



笠原国際連携機構長から採用証書授与

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生に採用され4月に入学した留学生に対し、同特待プログラム留学生採用証書授与式を、4月25日(火)に国際連携機構大会議室で行いました。

授与式には、笠原正典国際連携機構長をはじめ、指導教員など関係者が出席し、笠原国際連携機構長から留学生一人ひとりに採用証書が授与されました。

証書が手渡された後、笠原国際連携機構長から祝辞が述べられ、「後に続く留学生の目標となるような研究成果を期待している」という言葉を、留学生は真剣なまなざしで聞いていました。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。本学の教育研究に深い関心を持つ大学院の研究科及び学院並びに博士課程教育リー

ディングプログラムに入学する私費外国人留学生を対象としており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

現在は、今回の4月入学者の6名を含め、30名の特待プログラム留学生が在籍しています。

(国際部国際教務課)

新入留学生オリエンテーションを実施

4月に入学した留学生を対象として、新入留学生オリエンテーションを4月10日(月)に実施しました。このオリエンテーションは留学生が一日も早く本学での学生生活に慣れ、戸惑いや不安を解消し、新しい環境へ適応してもらうことを目的としています。オリエンテーションは英語セッション、バイリンガルセッション、日本語セッションの3部構成で進められ、36の国・地域から新しく渡日した229名の新入留学生が参加しました。

はじめに、国際連携機構留学生相談室の石井治恵カウンセラーから、日本の学生生活で適応するためのヒントについて講演があり、先輩留学生からは大学内外での手続きや生活の注意点が話されました。卒業後の進路を見据え

た学生生活を送るようにと人材育成本部の飯田良親特任教授からの話があり、参加者は聞き入っていました。続いて、国際教務課生活支援担当から日本独特の住環境についてのアドバイス、北警察署から日本の交通ルールの説明、留学生や外国人支援を行っている様々な団体から活動紹介がありました。



講演を熱心に聞く新入留学生

オリエンテーション終了後は留学生サポート・デスクのスタッフが希望者に対し日本語・英語・中国語の3言語でキャンパスツアーを実施し、これから過ごすキャンパスの説明を受けました。

(国際連携機構)



留学生生活についてのアドバイスを先輩留学生のアリエフ・ガビルさん

■ 部局ニュース

教育学院・教育学研究院がタイ・ナコーンパトムラチャパット大学大学院教育学院と学術交流プログラムを開催

教育学院・教育学研究院では、4月19日（水）にタイ・ナコーンパトムラチャパット（NPR）大学大学院教育学院の教員6名、博士課程大学院生19名、職員2名、計27名から構成される視察団の訪問を受け、教育学部大会議室において学術交流プログラムを開催しました。NPR大学は、バンコクから西へ約60kmに位置するナコーンパトム県にあり、前身は教員養成を目的とした教育大学で、2006年に5学部（教育、科学技術、人文社会学、経営学、看護学）からなる総合大学としてナコーンパトム大学と統合されました。

学術交流プログラム当日は、小内透教育学研究院長の歓迎挨拶に始まり、引き続き本学院国際交流委員会委員長の水野眞佐夫教授から、本学のWebサイト（英語版）を活用し、本学と部局

の研究教育の現状が紹介されました。また、視察団を代表して、Pitchayapa Yuenyaw准教授によるNPR大学紹介の後、午前中最後のプログラムとして、Jittirat Seanglertuthai准教授から教科指導法に関する最近の研究成果を報告いただきました。

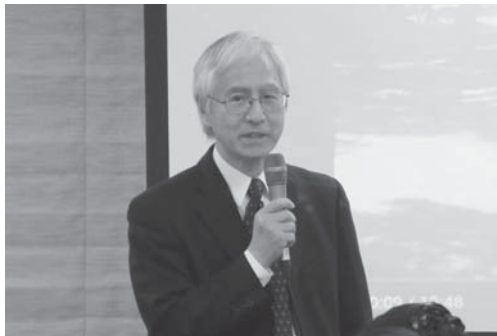
ファカルティハウス「エンレイソウ」で開いた昼食会には、NPR大学の視察団に本学院国際交流委員会委員7名、教職員2名、大学院生4名が加わり、闊達な情報交換及び交流を行うことができました。

午後のプログラムでは、本研究院の横井敏郎教授による日本の教育制度と課題について報告の後、両国における教育制度、研究領域、大学院の教育プログラム等についての積極的な質疑応答と討議が行われました。当該視察団

の博士課程大学院生全員がタイの地域社会における義務教育・中等教育を担う教員、学校長、教育大学教員であり、教育行政・学校管理だけでなく地域と密接に連携した取り組みの重要性も議論されました。

現在、NPR大学とは大学間交流協定及び部局間交流協定は未締結ですが、今回の訪問を受けて、Hokkaidoサマー・インスティテュートへの大学院生の派遣、教員の研究交流等の実績を今後積み上げることにより、国際的パートナーシップについての可能性が議論できることを期待して両大学の学術交流プログラムを閉幕しました。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）



小内研究院長の挨拶



ナコーンパトムラチャパット大学代表者の挨拶



特別講義で説明する横井教授



シンポジウムの様子

国際食資源学院で学院の看板を掲出

国際食資源学院が4月に開設されたことに伴い、学院の看板掲出を4月11日（火）に、食資源研究棟前において行いました。関係者立ち会いのもと、名和豊春総長と井上 京国際食資源学院院长により、国際食資源学院の真新しい看板が披露されました。その後、食

資源研究棟の会議室において懇談がもたれ、国際食資源学院の今後の展開等について、意見交換がなされました。

国際食資源学院では4月4日（火）の入学式の後、6日（木）より授業が始まり、17名の修士課程1年生が、本学複数部局の専任教員と海外招聘教員

などの多彩な教員から、世界が抱える多様な食資源問題の諸相について学んでいます。

（国際食資源学院）



看板を掲出する名和総長（左）と井上学院長



懇談会の様子

農学研究院でJAグループ北海道と共同セミナーを開催

4月27日（木）農学研究院にて、本学関係部局とJAグループ北海道が、今後の協力体制を維持・発展させるため、お互いの課題をできる限り具体的なものにすることを目的に共同セミナーを開催しました。

はじめに、JA北海道中央会の村上光男常務理事、本学の西井準治理事・

副学長並びに横田 篤農学研究院長の挨拶が行われ、続いて各部局から8名の講師による講演が実施されました。

本セミナーは、各部局が持つ研究シーズを踏まえ、JAグループ北海道の事業に対する提言や具現化の方法について、各講師が15分程度のプレゼンテーションを行い、質疑応答形式で進

行しました。

今後、本学とJAグループ北海道が協働で活動していくため、お互いのニーズを確認した意義のあるセミナーとなりました。参加者は100余名となり、本セミナーは盛況裏に終了しました。

（農学院・農学研究院・農学部）



開会の挨拶をする西井理事・副学長



各講師による講演の様子

経済学部でメンタルヘルス講演会を開催

経済学部では、4月6日（木）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、メンタルヘルス講演会を開催しました。本講演会は、新入生オリエンテーションの一環として、経済学部1年生と総合入試から経済学部に進級した2年生を対象としたもので、

保健センターの齋藤暢一朗講師から、ストレスとその対処法等についての講演がありました。

当日は200名近い学生及び教職員が参加し、熱心に講演に聴き入っていました。また、参加者に対して講演終了後に実施したアンケートでは「大変参

考になった」「不眠・ストレス対処法をぜひ実践したい」等の感想が多く寄せられました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する齋藤講師



熱心に講演を聴く学生

文学研究科で文系博士のキャリア構築に関するFD研修を開催

文学研究科では、4月14日（金）に人材育成本部上級人材育成ステーション（S-cubic）の樋口直樹特任教授を講師に、「文系博士の民間企業へのキャリア構築の可能性～理工系博士の事例とその支援施策から」と題したFD研修を実施しました。

人文社会系の博士後期課程学生の進路は、民間企業への就職の実績が少なく、アカデミック・ポスト以外のキャリアパスを想定するのが難しいと、教員や学生の中で考えられてきました。ところが最近では、複雑な社会情勢に対応できる人文社会系博士人材の活躍の場が、民間企業等で生まれつつあります。今後、アカデミック・ポスト以外のキャリアパスも考慮に入れた博士後期課程学生の指導を行っていくために、博士人材キャリアパスの現状を知り、文系博士のキャリア構築の可能性を知ることが、本FD研修の目的です。

人材育成本部の上級人材育成ステーションは、これまで10年間にわたり、

理工系博士を中心にキャリアパス多様化に取り組んできました。これを文系博士に対しても広げる取り組みが始まっています。講演では、本学における博士学生のキャリアパスの実態について解説があり、上級人材育成ステーションが行っている支援が説明されました。さらに文学研究科博士後期課程学生への支援事例が紹介され、人文社会系博士のキャリアパスの可能性について言及がありました。

質疑応答では、民間企業ほか多様な進路を開拓できるのであれば、博士後

期課程への進学者を受け入れやすくなるというコメントや、キャリアパスを考える際に、アカデミック・ポスト以外の選択肢があるという、教員及び学生の意識改革の必要性を指摘する意見が出ました。

文学研究科では、今後、人文社会系博士人材に対してより効果的な支援を行っていくために、上級人材育成ステーションと協力しながら、新たな支援策の開発に取り組んでいく予定です。

（文学研究科・文学部）



講師の樋口特任教授



会場の様子

薬学部で新入生歓迎会を開催

薬学部では、4月14日（金）、薬学部多目的講義室において、後期入試で薬学部へ入学した1年生24名及び薬学部へ移行してきた2年生83名の歓迎会

を開催しました。

歓迎会には、薬学部・薬学研究院全体で約200名の参加があり、佐藤美洋薬学部長の挨拶の後、学年や研究室を

越えて互いに交流を深め、盛会のうちに終了しました。

（薬学研究院・薬学部）



佐藤薬学部長の挨拶



司会進行で活躍した学生



学生・教員との交流

平成29年度薬学実務実習開始セレモニーを挙げる

薬学部では、4月25日（火）に平成29年度薬学実務実習開始セレモニー「臨床現場へあがるための心得」を挙

行しました。 聡教務委員長、実務実習担当教員らが出席し、実務実習の趣旨や学生に期待すること、昨年度実施された実務実習をふまえての注意点などとともに、激励の言葉が伝えられました。

る場で実習に臨む際の心構えなどが伝えられ、学生たちの熱心に聞き入る様子が見られました。

この式は、薬学科5年次生が実務実習（病院実習・薬局実習）に臨むにあたり毎年実施しているもので、学生は実習中のユニフォームとなる真新しい上下の白衣に身を包み、引き締まった面持ちで参加していました。

受け入れ施設からは、北海道大学病院薬剤部の井関 健薬剤部長、株式会社アインファーマシーズの佐藤絵馬氏、株式会社ツルハの古崎香織氏、株式会社コムファの井野千枝子氏が出席し、臨床の現場・患者さんに直接接す

また、佐藤薬学部長から学生一人ひとりへ実習中着用するネームプレートが手渡され、病院・薬局合わせて5か月に及ぶ実習への壮行となりました。

（薬学研究院・薬学部）



激励の言葉をかける井関薬剤部長



ネームプレートを手渡す佐藤薬学部長



熱心に聞き入る学生たち

脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙



新しく加わった履修生と基幹教員



新入生歓迎交流会の様子

脳科学研究教育センターでは、4月5日（水）にファカルティハウス「エンレイソウ」第1会議室において、今年度入学した履修生の開講式を行いました。

渡邊雅彦センター長（医学研究院教授）から、祝辞とともに発達脳科学専攻の特色ある教育体制や研究指導内容について説明があり、新入生は、バーチャル専攻の特徴を活かした大学院教育に、大きな期待を示していました。

引き続き、出席した基幹教員と履修生の自己紹介の後、田中真樹センター教務専門委員会委員長（医学研究院教授）から、修了要件についての説明があり、「所属学院・研究院の課程のみを修了する大学院生に比べ、より多くの単位を修得する必要があります、さらには当センターの合宿研修や発表会等で研鑽を積むことになり大変ではあるが、その経験は必ず将来の自信につながるので頑張ってください」との

激励がありました。

開講式に引き続き、同会場にて新入生歓迎交流会が行われ、参加者は所属部局の違いを超えて情報交換を楽しんでいました。

本専攻には、今年度7名の履修生（修士課程7名）が加わり、全体では25名の履修生が在籍することになります。

（脳科学研究教育センター）

北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催

4月5日（水）、北海道大学病院では6つの職種（医科臨床研修医・歯科臨床研修医・看護師・薬剤師・メディカルスタッフ・事務職員）の今年度新規採用者を対象に、多職種合同歓迎会を開催しました。

この合同歓迎会は、病院全体で新規採用者へ歓迎の意を表するとともに、午前中から行われたコミュニケーションスキル研修の一貫として企画し、各部署の新規採用者と病院各部署・職種間の相互の親睦を図り、優れたチーム医療体制作りを目指したものです。会場となった北部食堂には、新規採用者194名のほか、寶金清博病院長をはじめ病院執行部・各診療科長等92名が集まりました。

会の冒頭では、寶金病院長の開式挨拶、山口泰彦病院長補佐の乾杯の発声

があり、多職種混合グループでの笑顔があふれる賑やかな雰囲気となりました。

会の途中には病院執行部より期待のこもった激励及び各職種の新規採用者紹介があった後、その期待に応えるように新規採用者代表6名より熱い抱負が述べられました。

最後に佐藤ひとみ看護部長から乾杯及び閉式の言葉が述べられ、大盛況の

中、惜しまれつつも会が終了し、新規採用者と病院職員との交流が深まる場となりました。

職種の垣根を越えたシームレスな連携が重要性を増す医療現場において、本会がチーム医療実践の一助となることを期待します。

（北海道大学病院）



寶金病院長による歓迎の挨拶



親睦を深める新規採用者

理学研究院AL推進室・ALP企画シンポジウム 「専門教育のためのアクティブラーニング」を開催

理学研究院アクティブラーニング（AL）推進室と物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（ALP）では、昨年度に引き続きアクティブラーニングに係るシンポジウムを3月14日（火）に理学部5号館201教室で開催し、教職員37名、学生10名の参加がありました。

グループワークや課題解決型学習など学生の能動的な学習を取り入れたアクティブラーニングは、大学教育においても推奨され、その導入に向けて多くの取り組みがなされています。この度のシンポジウムでは、AL推進室とALPがそれぞれ実践しているアクティブラーニング型授業について報告すると共に、専門教育においてアクティブラーニングを実践している教員から、その具体的な実践例と実践を通して見えてきた学習効果や課題等についての話がありました。

シンポジウムは、理学研究院の齋藤陸副研究院長による挨拶で始まり、続いて5件の講演が行われました。アクティブラーニング推進室の担当教員

（難波美帆、古澤和也）からは、専門教育におけるアクティブラーニング型授業のプロトタイプを作る試みとして実施した理学部生を対象とする授業の概要及び、その学習効果と課題について報告がありました。歯学研究科の八若保孝教授からは、同学部・研究科でのアクティブラーニングについて、その導入に至った経緯、専用教室の整備やカリキュラム改革、FD研修なども含めた紹介がありました。また、大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング（BE）専攻の上西啓介教授からは、「大学院生向けアクティブラーニングの実践と課題」と題して講演いただきました。同専攻では、専門教育とアントレプレナーシップ教育を両立させるカリキュラムを実施すると共に、同大経営学専攻が実施する1年間の技術経営（MOT）コースの受講により、BE修士課程を含めた3年間でMBAも取得できる教育プログラムを創設するなど、先進的な人材育成を行っていることが分かりました。

休憩を挟んだ後半のセッションで

は、専門性を活かす力を併せ持つ人材の育成を行っている本学の2つの大学院教育プログラムからの講演がありました。ALPの七澤 淳客員教授は、昨年度実施したProblem Based Learningの過程を振り返り、学生がチームで課題解決に取り組んでいる様子について、教員のファシリテーターとしての役割も交えながら報告しました。また、新渡戸スクールの繁富香織特任准教授は、基礎プログラムで行っているアクティブラーニングの事例と今年度から始まる博士課程学生を対象とする上級プログラムの概要について紹介しました。上級プログラムには指導教員らと連携して行うプロジェクト研究が含まれており、今回のシンポジウムは教員の方に上級プログラムについて知ってもらう機会になりました。

最後に、参加者から講演者に対する質疑を中心とするフリーディスカッションが行われ、シンポジウムは盛会の内に終了しました。

（理学院・理学研究院・理学部）



齋藤副研究院長の冒頭挨拶



講演の様子



参加者の様子

北大-NIMSジョイントシンポジウムを開催

4月21日（金）、フロンティア応用科学研究棟レクチャーホール（鈴木章ホール）において、本学及び物質・材料研究機構（NIMS）主催による「北大-NIMSジョイントシンポジウム」を開催しました。

本学とNIMSは、平成16年に締結した包括連携協定を基に現在に至るまで活発な研究交流や人材交流、人材育成を進めてきました。特に人材育成においては教育連携を深めており、平成20年4月に工学研究科化学系専攻内に連携講座、同年5月には理学院化学系専攻内により緊密な関係を持つ連携講座が設置され、現在の総合化学院総合化学専攻内の「無機物質化学講座」の一部及び「機能物質化学講座」へと進展しています。さらに平成20年9月には、生命科学院生命科学専攻内に連携講座として「フロンティア生命材料科学分野」が、同21年5月には、理学院物性物理学専攻内に「先端機能物質物理学分野」が設置され、化学系連携講座とともに、活発な教育・研究活動を

展開してきました。今回、これらの連携・関係の歴史を振り返るとともに、今後さらなる発展を祈念して、組織間・専攻間交流を深めるべく本シンポジウムを開催しました。

シンポジウムは、大熊毅総合化学院長の開会の辞で始まり、名和豊春総長及び長野裕子NIMS理事による開会の挨拶、魚崎浩平NIMSフェローによる「北大-NIMS連携について」、その後、「化学連携について」「物理連携について」「生命科学連携について」と題して、網塚浩理学院長、山下正兼生命科学院長をはじめとする本学の教員及びNIMSの客員教員による講演が行われました。

午後からは、「化学」「物理」「生命」の各分野による学術講演会が行われ、昨年度まで総合化学院の客員教授としてご尽力いただいた室町英治NIMS審議役、魚崎NIMSフェローによる講演では、これまでの教育研究活動を振り返りつつ、本連携における今後の期待が話されました。また、本学

の教員及びNIMSの研究者からは、最先端の研究内容が紹介され、さらに本年度から新たに客員教員に就任されたNIMSの研究者からは、今後の教育研究の展開に向けた強い意気込みが語られました。最後に、橋本和仁NIMS理事長による挨拶でシンポジウムは終了しました。シンポジウムの会場には、本学の教員、NIMSの研究者及び本学の学生等、総勢170名程の参加があり、熱気に溢れる講演に会場の参加者から多くの質問が寄せられました。

シンポジウム終了後には、センチュリーロイヤルホテル20階「ノーブル」にて懇親会が行われ、本学及びNIMSにおける教育研究に係る意見交換が和やかな雰囲気のもと、さらに活発に行われ、双方にとって有意義な交流となりました。今後、さらに交流を深め、本学及びNIMSのより一層の連携・関係を推進していきたいと考えています。

（総合化学院）



シンポジウム集合写真



名和総長（左）、橋本NIMS理事長（右）による挨拶



懇親会集合写真



室町NIMS審議役（上）、魚崎NIMSフェロー（下）による退任記念講演



（上）大熊総合化学院長による開会の辞、（下）網塚理学院長（左）、山下生命科学院長（右）による講演



（上）懇親会にて名和総長（左）、橋本NIMS理事長（右）の挨拶、（下）橋本NIMS理事長（左）、名和総長（中央）、西井準治理事・副学長（右）

附属図書館で映画上映会「図書館×映画」を開催

4月24日（月）に附属図書館（本館）メディアコートにおいて、附属図書館・映画研究会コラボ映画上映会「図書館×映画」を開催しました。

北海道大学公認サークル「北海道大学映画研究会」との協働により企画されたもので、メディアコートに設置された巨大スクリーンを活用して、映画

研究会制作作品『夏の残滓』、是枝裕和監督作品『そして父になる』を上映しました。

当日は一般市民を含む26名の参加があり、参加者に実施したアンケートからは、「テレビとは違う大きなスクリーンや音響で映画を観ることができて良かった」「『夏の残滓』というタ

イトルが美しく、映画の内容とぴったりだった」「面白いイベントだったのでまたやってほしい」といった声が寄せられました。

（附属図書館）



映画研究会からの挨拶



上映会の様子

応援団・恵迪寮関係資料を大学文書館で受贈

4月7日（金）、山本雅彦氏（農学部農業工学科1979年卒業、札幌農学同窓会関西支部事務局長）より、1960～70年代の応援団・恵迪寮に関連する資料など16点を大学文書館にご寄贈いただきました。

寄贈資料は、「北海道大学VS小樽商科大学 第62回定期戦学生用プログラム」（1976年）、小樽商科大学定期戦のポスター（1975-76年）、寮歌祭

のポスター（1971、1973-75年）、恵迪寮祭のパンフレット（1976年）、応援団団誌『蠻聲』（1969、1974年）などです。

ポスター類は、行事案内の用途が終わると保存されることは稀ですが、今回ご寄贈いただいたポスターは、いずれも味わいのあるデザインで、大変保存状態の良いものです。プログラムやパンフレット類は、応援団の市内行進

の予定図、対面式の場所や日時、寮歌祭の詳細などを現在に伝えてくれます。

今後、ご寄贈いただいた資料は、大学文書館において大切に保管し、閲覧・展示などを通じて広く紹介してまいります。

（大学文書館）



寮歌祭ポスター（1975年）



对小樽商科大学定期戦プログラム、応援団誌『蠻聲』、恵迪寮祭パンフレット

■お知らせ

北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

文部科学省共済組合北海道大学支部では福祉共同事業の一環として、毎年道内各地の宿泊所・保養所と利用契約し、宿泊費の一部負担を実施していますが、平成29年度においても次のとおり実施しています。

なお、予算の関係上、割当枚数に達した場合は、契約期間中でも利用券発行を停止しますので、ご了承願います。

1. 契約宿泊施設 宿泊施設一覧表のとおり
2. 契約期間 平成29年6月1日（木）～平成30年2月28日（水）
3. 共済組合負担額 利用者1人1泊につき1,500円補助
4. 利用方法 利用券の発行を受ける場合には、利用券発行申請書を所属部局の担当係へ提出してください。
発行された利用券はチェックインの際に施設受付で提示し、利用券を使用して宿泊する旨を伝えてください。なお、旅行代理店やインターネットにおける予約をご利用の場合は、宿泊利用券の使用が認められないことがあります。また、事前にクレジットカード等を利用して宿泊料を支払ってしまうと、利用券が使用できなくなりますのでご注意願います。
5. 利用資格者 組合員及びその被扶養者（小学生以上）とします。ただし、出張の際の利用はできませんので、ご注意願います。また、一度につき、3泊以上の利用はご遠慮願います。

平成29年度 宿泊施設一覧

施設名	所在地	電話
KKRホテル札幌	〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目	011-231-6711
札幌ガーデンパレス	〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目	011-261-5311
シャトレーゼ ガトールキングダムサッポロ	〒002-8043 札幌市北区東茨戸132	011-773-2211
定山溪ビューホテル	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東2丁目	011-598-3223
定山溪鶴雅リゾートスパ 森の譚	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東3丁目192	011-598-2671
KKRはこだて	〒042-0932 函館市湯川町2丁目8-14	0138-57-8484
啄木亭	〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15	0138-59-5355
HAKODATE 海峡の風	〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15	0138-59-1126
望楼NOGUCHI 函館	〒042-0932 函館市湯川町1丁目17-22	0138-59-3556
グリーンピア大沼	〒049-2192 茅部郡森町赤井川229	01374-5-2277
八雲温泉 おほこ荘	〒049-3128 二世郡八雲町鉛川622	0137-63-3123
洞爺観光ホテル	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉33	0142-75-2111
洞爺サンパレス	〒049-5731 有珠郡壮瞥町字洞爺湖温泉7-1	0142-75-1111
湖畔亭	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉7-8	0142-75-2211
乃の風リゾート	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉29-1	0142-75-2600
緑の風リゾートきたゆざわ（旧名水亭）	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-2	0142-68-8126
きたゆざわ 森のソラニワ（旧第二名水亭）	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-7	0142-68-6677
ホロホロ山荘	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町34	0142-68-6321
登別ランドホテル	〒059-0592 登別市登別温泉町154	0143-84-2425
登別温泉 御やど清水屋	〒059-0551 登別市登別温泉町173	0143-84-2145
石水亭	〒059-0596 登別市登別温泉町203-1	0143-84-2255
望楼NOGUCHI 登別	〒059-0551 登別市登別温泉町200-1	0143-84-3939
ニセコランドホテル	〒048-1511 虻田郡ニセコ町ニセコ412	0136-58-2121
ルスツリゾートホテル	〒048-1711 虻田郡留寿都村字泉川13	0136-46-3331
かんぼの宿 小樽	〒047-0154 小樽市朝里川温泉2丁目670	0134-54-8511
休暇村 支笏湖	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2201
しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の譚	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2211
星野リゾート トマム	〒079-2204 勇払郡占冠村字中トマム	0167-58-1122

施設名	所在地	電話
十勝サホロリゾート	〒081-0039 上川郡新得町狩勝高原	0156-64-7111
大雪山白金観光ホテル	〒071-0235 上川郡美瑛町白金温泉	0166-94-3111
層雲閣グランドホテル	〒078-1792 上川郡上川町層雲峡温泉	01658-5-3111
朝陽亭	〒078-1795 上川郡上川町層雲峡温泉	01658-5-3241
朝陽リゾートホテル	〒078-1701 上川郡上川町層雲峡温泉	01658-5-3911
ホテル日航ノースランド帯広	〒080-0012 帯広市西2条南13丁目1	0155-24-1234
ホリデーイン ホテル十勝川	〒080-0263 河東郡音更町十勝川温泉南16丁目2	0155-46-2555
ニュー阿寒ホテル	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-8	0154-67-2121
あかん湖鶴雅ウイングス	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6-10	0154-67-4000
あかん遊久の里 鶴雅	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6-10	0154-67-4000
あかん鶴雅別荘 鄙の座	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-1	0154-67-5500
阿寒の森鶴雅リゾート 花ゆう香	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉1丁目6-1	0154-67-2500
KKRかわゆ	〒088-3465 川上郡弟子屈町川湯温泉1-2-15	015-483-2643
知床第一ホテル	〒099-4351 斜里郡斜里町ウトロ香川306	0152-24-2334
サロマ湖鶴雅リゾート	〒093-0216 北見市常呂町栄浦306-1	0152-54-2000
塩別つるつる温泉	〒091-0163 北見市留辺蘂町滝の湯201	0157-45-2225
北天の丘 あばしり湖鶴雅リゾート	〒099-2421 網走市呼人159	0152-48-3211

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

グローバルファシリティセンター機器分析受託部門を創成科学研究棟に移設

創成研究機構グローバルファシリティセンター（以下、GFC）では、これまで分散していた機器分析拠点を北キャンパスへ集約し、新しい体制で分析サービスの提供を始めました。

札幌キャンパス南エリアから北エリアへ移転したのは、GFC 5部門のうちの一つである「機器分析受託部門」で、専任の技術スタッフは、4月から新たな環境で受託分析業務を再開しました。

機器分析受託部門は「分析機器を活用し教育と研究にその施設を供すると共に化学分析および分析技術の開発研究を通じて本学における教育・研究の進展に資すること」を使命として、長きにわたり受託分析を行っています。現在行っている受託項目は質量分析、有機微量元素分析、アミノ酸組成分析、タンパク質配列分析の4つで、なかでも質量分析については年間1万件ほどの受託件数の約3分の2を占める利用率の高い分析項目であり、種類の異なる6台の質量分析装置を設置して分析を行っています。移転に伴い、NMRについては受託停止となりましたが、専任の熟練した技術スタッフが第三者として分析を担い、ディスカッションを行いながら研究者に寄り添った対応をしていく当部門のスタイルは、学内のみならず学外からのユーザーにも信頼を得ており、学外からの受託件数も年々増加しています（平成28年度実績 約500件）。

また、GFCの発足（平成28年1月）と同時に、本学における受託分析の窓口となるべく「受託分析サービスサイト」を立ち上げました。学内局・センター等との連携を図りながら受託分析の側面から研究支援及び産学地域連携を推進していきます。

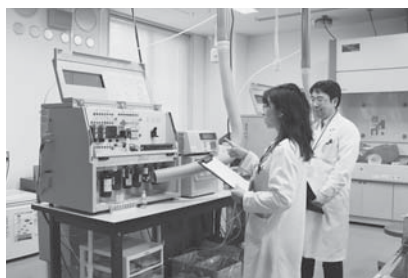
GFCは機器分析受託部門のほかオープンファシリティ部門、試作ソリューション部門、設備リユース部門、国際連携部門の5部門他2室で活動しています。新たな仲間を迎えた北キャンパスのGFCにご期待ください。

◆<https://www.gfc.hokudai.ac.jp/iad/>

（創成研究機構）



創成科学研究棟への移設セレモニー（2017.3.22）



タンパク質配列分析



■ 同窓会との交流

函館同窓会「総会及び懇親会」

3月23日（木）に函館市のホテル函館ロイヤルにおいて北海道大学函館同窓会総会・懇親会が開催され、本学から山口佳三総長、新田孝彦理事・副学長、徳久治彦理事・事務局長が出席しました。当日の参加者は30名でした。

懇親会は山根 繁会長の挨拶に始まり、山口総長、新田理事・副学長が「北大の現状」を交えた挨拶を行いました。安井 肇水産科学研究院長の発声による乾杯の後、参加者は懇親を深めました。最後に、参加者全員が

輪になって肩を組み寮歌「都ぞ弥生」を歌い、盛会の裡に終了しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



全員で「都ぞ弥生」斉唱

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成29年4月1日）

- 報告事項・総長の職務代理の指名について
- ・ 理事及び副学長の職務分担について
 - ・ 総長補佐の任命について
 - ・ 平成29年4月1日付け教育研究組織の改組について
 - ・ 平成29年4月1日付け事務組織の改組について
 - ・ 緊急連絡体制について

役員会（平成29年4月10日）

- 協議事項・生命科学院ソフトマター専攻の設置について
- 報告事項・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
- ・ 平成29年度学部入学者数について
 - ・ 東日本大震災等で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について

教育研究評議会（平成29年4月19日）

- 議 題・総長選考会議委員の選出について
- ・経営協議会の学外委員について
 - ・名誉教授の選考について
 - ・生命科学院ソフトマター専攻の設置について
- 報告事項・理事及び副学長の職務分担について
- ・総長補佐の任命について
 - ・指定国立大学法人制度について
 - ・大学間交流協定の新規締結について
 - ・ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
 - ・大学図書館における歴史的に重要な文書及び資料等の収集について
-

役員会（平成29年4月21日）

- 議 案・生命科学院ソフトマター専攻の設置について
- 報告事項・平成29年度国立大学法人機能強化促進費（補助金）の交付内定について
- ・地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議について
-

■ 研修

平成29年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

開催期間：平成29年4月12日～14日

開催場所：学术交流会館第1会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を付与することを目的とする。



開講挨拶（名和豊春総長）



特別講話（徳久治彦理事・事務局長）



演習・グループワーク（株式会社アムリプラザ）



閉講式（修了証書授与）

（総務企画部人事課）

■表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
29.4.12	南京農業大学（中国） Zhou Guanghong 学長・教授	両大学の交流に関する懇談
29.4.19	淡江大学（台湾） Flora Chia-I Chang 学長	両大学の交流に関する懇談
29.4.21	台北駐日経済文化代表処 Lin, Shih-Ying 教育部長	両国の交流に関する懇談
29.4.25	極東連邦大学（ロシア） Nikita Yu. Anisimov 学長	学内視察及び両大学の交流に関する懇談



南京農業大学（中国）
Zhou Guanghong 学長・教授（前列中央右）



淡江大学（台湾）
Flora Chia-I Chang 学長（前列中央左）



台北駐日経済文化代表処
Lin, Shih-Ying 教育部長（前列右）



極東連邦大学（ロシア）
Nikita Yu. Anisimov 学長（中央右）

（国際部国際連携課）

■人事

平成29年4月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 (辞職)	穴 田 仁 洋 北 村 信 人	大学院薬学研究院准教授 国際連携研究教育局・大学院医学研究院准教授
【助教】 (任期満了) (辞職)	森 口 徹 生 吉 村 文 彦	遺伝子病制御研究所助教 大学院理学研究院助教
【URA職】 (辞職)	栗 谷 尚 子	大学院文学研究科URA
【技術職員等】 (辞職)	岩 村 舞 葛 西 加 奈 斉 藤 あり紗 佐々木 枝莉子 西 野 かさね 森 山 真也子	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

平成29年5月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【係員】 施設部施設整備課	石 田 健 介	採用
【技術職員等】 大学院医学研究院 水産学部附属練習船おしよろ丸一等機関士 水産学部附属練習船うしお丸一等機関士 水産学部附属練習船うしお丸甲板員 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 電子科学研究所	水 溜 悠 志 村 順 平 進 藤 謙 一 成 田 大 剛 小野田 紘 子 北 村 聖 花 平 井 志 明 楠 崎 真 央	採用 採用 水産学部附属練習船うしお丸一等機関士 採用 採用 採用 採用 採用

資料

役 職 員 数

平成29年5月1日現在

部 局 等	職 種	総 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	小 計	URA職	専門職	事務職員	技術職員	合 計
役 員		1人	5人	2人	8人											8人
政策調整室														3		3
監査室														7		7
事務局	総務企画部												4	91	12	107
	財務部													79		79
	学務部													72		72
	研究推進部													32	1	33
	施設部													10	25	35
	国際部													35		35
附属図書館														93		93
文学研究科・文学部						50	35		8		93	2		16		111
法学研究科・法学部						33	16		6	2	57		2	18		77
情報科学研究科						41	36		18		95					95
水産科学院・水産科学研究院・水産学部						29	29		18		76				40	116
函館キャンパス事務部														23	4	27
環境科学院・地球環境科学研究院						20	22		8	1	51					51
環境科学事務部														12		12
理学院・理学研究院・理学部						73	67	9	46	2	197		2		18	217
理学・生命科学事務部														42	2	44
薬学研究院・薬学部						16	6	10	20		52				3	55
薬学事務部														10		10
農学院・農学研究院・農学部						44	38	30	19		131				11	142
農学・食資源学事務部														28	2	30
生命科学院・先端生命科学研究院						10	4	1	10		25					25
教育学院・教育学研究院・教育学部						13	22		4	1	40					40
教育学事務部														8		8
国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究院						27	29	2	3		61					61
メディア・観光学事務部														9		9
保健科学院・保健科学研究院						26	11	6	32		75					75
工学院・工学研究院・工学部						87	95	2	92	1	277		1		49	327
工学系事務部														68	3	71
総合化学院																
経済学院・経済学研究院・経済学部						25	17		4		46		2			48
経済学事務部														9		9
医学院・医学研究院・医学部						33	31	15	63	2	144				12	156
医学系事務部														47	2	49
歯学院・歯学研究院・歯学部						18	20	1	45		84				4	88
歯学事務部														12	1	13
獣医学院・獣医学研究院・獣医学部						17	15	5	15		52				3	55
獣医学系事務部														15		15
医理工学院																
国際感染症学院																
国際食資源学院																
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部						12	6	2			20					20
北海道大病院						4	20	54	81		159			120	662	941
低温科学研究所						13	10	1	21		45			8	9	62
電子科学研究所						14	12		21		47				10	57
遺伝子病制御研究所						8	5	4	14		31				7	38
触媒科学研究所						8	6		7		21				6	27
スラブ・ユーラシア研究センター						7	4		5	1	17					17
情報基盤センター						7	5		3		15					15
人獣共通感染症リサーチセンター						6	4	3	3		16				2	18
アイソトープ総合センター						1	1		1		3				2	5
量子集積エレクトロニクス研究センター						3	3				6					6
北方生物圏フィールド科学センター						13	18		11		42			18	72	132
観光学高等研究センター						3	2				5					5
アイヌ・先住民研究センター						1	6				8					8
社会科学実験研究センター											1					1
環境健康科学研究教育センター							1				1					1
北極域研究センター						3	1		3		7					7
脳科学研究教育センター																
外国語教育センター																
総合博物館						3	2	2	2		9					9
大学文書館							1				1		1			2
保健センター						1			1		2				9	11
埋蔵文化財調査センター											2					2
国際連携研究教育局						8 (33)	5 (20)	1 (9)	8 (13)		22					22
技術支援本部																
情報環境推進本部																
アドミッションセンター																
人材育成本部																
創成研究機構							1		1		2		1		8	11
高等教育推進機構						2	8	1			11				4	15
サステイナブルキャンパス推進本部																
安全衛生本部						2					2		1			3
大学力強化推進本部												12				12
産学・地域協働推進機構						1					1		8			9
総合IR室																
国際連携機構						4	5		9		18		6			24
北キャンパス合同事務部														16		16
合 計		1	5	2	8	686	619	150	605	10	2,070	14	28	901	983	4,004

※国際連携研究教育局の教職員数の()内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該教職員は、原籍組織の教職員数に計上
 (情報科学研究科：4名、水産科学研究院：1名、地球環境科学研究院：4名、農学研究院：13名、先端生命科学研究院：9名、教育学研究院：1名、メディア・コミュニケーション研究院：1名、
 保健科学研究院：2名、工学研究院：3名、経済学研究院：1名、医学研究院：6名、獣医学研究院：3名、北海道大病院：5名、低温科学研究所：1名、電子科学研究所：2名、
 スラブ・ユーラシア研究センター：2名、人獣共通感染症リサーチセンター：10名、北方生物圏フィールド科学センター：1名、北極域研究センター：6名)

(総務企画部人事課)

編集メモ

●新緑の輝く季節となりました。キャンパス内でも緑があふれ、花の彩りが美しい時季となっています。

●リテラポブリ59号を発行しました。今回の特集ページでは“放つ”をテーマに、「産業創出／グローバルファシリティセンター」「重要文化財」「北大元気プロジェクト」を取り上げています。ぜひご覧ください。

◆ <http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>





2016.5.8 北海道新幹線・海峡線 湯の里知内信号場～木古内（知内町）

北の鉄道風景 50 新緑の山峡を駆ける

昨春開業した北海道新幹線・新青森～新函館北斗のうち、青函トンネルとその前後を含む82.1kmの区間は、在来線（海峡線）との共用区間である。軌間が異なる新幹線車両と在来線車両の両者が走行できるように、この区間の線路は、1対あたり3本のレールで敷設されている。写真はH5系の<はやぶさ>が新函館北斗駅を目指して、新緑の山峡を駆ける光景である。ここも新在共用区間であるが、新幹線専用区間とは異

なり、防音壁が未設置のため、新幹線車両の走行シーンをすっきりと望むことができる。しかし、新幹線の高速走行に向けて、近い将来、新在共用区間にも防音壁が設置される模様であり、このような写真を撮れるのも今のうちだけになりそうだ。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑤ No.758 平成29年5月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html